

県議会議員

あらい、絹世の磯っ子レポート

夢と希望のある神奈川を



<http://www.arakinuyo.jp>

コロナ対策に重点、県民生活直結の事業も推進 総額4兆2,452億円、県の2021年度当初予算案

2月10日開会された第一回定例県議会本会議に2021年度の当初予算案が提案されました。一般、特別（国民健康保険など）、企業（水道など）の3つの会計合わせた総額は前年度当初より1.2%増の4兆2,452億円で、4年連続過去最大となります。このうち県民生活と関わりの大きい一般会計は前年度当初より7.6%増の2兆484億円。こちらも3年連続の増。黒岩祐治知事は「コロナから生命と暮らしを守り抜く予算」との表現で「医療体制整備と経済回復に重点的に配分したことが特徴の予算」であることを説明。さらに「県民生活に直結する事業は着実に推進」「東京2020年五輪・パラリンピック開催延期に関連して事前キャンプの感染症対策を実施するなど成功に向けての取り組みにも留意している」ことを謳っています。

一方で財源の確保は大変。景気の落ち込みで県税収入は1兆1,425億円しか見込めず、財源不足の総額は705億円に上ります。これに対処して財政調整基金の取崩し690億や県主催イベントの中止など110億円の徹底した事業の見直しを行いました。借金に当たる県債の新規発行額は前年度より9.4%増の2,918億円に。新年度の当初予算案は3月から予算特別委員会、各常任委員会で審議される予定で、3月25日開会の本会議で採決される見通しとなっています。

一般会計当初予算案では新型コロナウイルス感染症対策として1,522億2,331万円が組まれています。これは、陽性患者やその疑いのある患者向け病床2,300床の確保、感染症専用病棟の運営（3施設268床）、ワクチン接種体制の整備などです。経済回復に向けた支援としては、県が民間金融機関と提携して行っている独自の低利融資制度の補助などに関わる予算枠を前年度の2,600億円から3,000億円に引き上げ、感染拡大防止対策やビジネスモデル転換事業（デリバリーなど）に対する補助も継続（38億円）する、などです。

「県民生活に直結する事業」では、地震災害、風水害対策の推進として1,216億6,874万円が組まれています。危険個所の対応工事、遊水池の整備など風水害対策の推進では昨年度における当初計画時の予算より96億円多い560億円を計上。また校舎の耐震・老朽化対策、トイレの洋式化、空調設備の整備など「新まなびや計画の推進」では、前年度より68億円多い280億円が組まれています。今年8月開所予定の津久井やまゆり園と、同12月開所予定の芹が谷やまゆり園の新築工事関係費として合わせて34億円余、運営費として同5億円余も計上されています。



コレが言いたい!

2021年度の当初予算は、新型コロナウイルスへの対応に重点的に配分しており、一般会計では昨年より1,448億円増加しています。その一方で収入は減少しており、県の貯金とも言える財政調整基金を690億円切り崩し、財政不足を補っています。その結果、2020年度末の財政調整基金は1,040億円から350億円へと激減しています。また、県債現在高は増加しており、貯金は減って借金が増えているという大変厳しい状況です。今後も県民生活に直結する事業はしっかりと行っていくものの、未病やヘルスケアなど県独自の取組は見直す必要があります。



3月12日（金）から17日（水）の10時半から17時の4日間で委員長を務める予算委員会が開催されます。予算委員会の様子は、3月24日（水）、25日（木）、26日（金）の18時半から概ね20時までTV神奈川で放送されます。

磯子 あれ? これ? 森浅間神社 (磯子区森)

森浅間神社の創建については、諸説あり、源頼朝の祈願所だったとするものや、建武2(1335)年に六世修験者長円に薬師如来を託し、本地仏として富士山が望める森の我羅山(浅間山)に山岳信仰の修行場である浅間神社を建てたとする説があります。

十九代住職の長観が、文禄3(1594)年、松本村(現港南区港南)に不動明王を祀る松本権現堂を建て移り住みました。明治元(1868)年、神仏分離の令が下り、権現堂の不動明王を福聚院に収め権現堂を廃し、浅間神社だけ残しました。時の三十代住職(長詮)は、僧位を返上して地名の松本を姓として、神官となりました。もう一体の不動明王は、今も社殿東下の不動滝に祀られています。



神社境内へと続く急な石段

明治41(1903)年には12社を合祀し、森三ヶ村(森公田村、森雑色村、森中原)の総社となりました。

神社境内へと続く急な石段では、近隣でアルバイトをしていたボクシングの内藤大助選手がトレーニングに励んでいました。今でも様々なスポーツ選手のトレーニングの場となっています。 参考:宮司のはなし

活動報告

2月16日(火)、神奈川県警察本部にて「アクティブ交番」の公開が行われました。平成31年3月に策定した神奈川県警交番等整備基本計画では、交番の数を今後10年間のうちに70か所減らした400か所に統合する事とし、交番統合後の治安対策として動く交番、出前型交番である「アクティブ交番」を導入しました。アクティブ交番に、警察官が2人態勢で乗車し、各種相談や届け出、防犯啓発など従来の固定型交番とほぼ同等の業務を行います。磯子区の間坂交番も統合されることから、この交番機能を備えたワゴンタイプの車両「アクティブ交番」が配備されます。区内を日替わりで巡回しますが、場所や時間については警察のHPに掲載されます。



あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株)/(株)メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成31年4月 県議会議員3期目当選
- 産業労働常任委員会委員
- 議会運営委員会委員
- 予算委員会委員長
- かながわ自民党女性議員局長

